

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 10 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200676
法人名	サンキ・ウエルビー株式会社
事業所名	サンキ・ウエルビー グループホーム吉島
所在地	広島市中区光南4丁目5番1号 (電話082-259-3103)
自己評価作成日	平成25年9月30日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○寄り添う心を忘れずに ○信頼を深めながら ○自信を持って ○満面の笑顔でおもてなし 上記の理念を掲げ、取り組んでいます。 サービス付き高齢者住宅・小規模多機能型居宅介護が併設であり、利用者・入居者で交流が図れるよう行事なども行っています。また、3つの事業が協力し心身状況の変化に対応できるよう支援しています。</p>
--

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 25 年 10 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「福祉事業を通じて地域社会に貢献する」という企業理念のもとで、職員は事業所開設時に全員で考えて作成した独自の事業所理念の実践を心がけ、地域に根ざした質の高いサービス提供に努めるとともに、毎年行っている自己目標管理と毎月の内部研修で、それぞれスキルアップに励んでいる。 経験豊富なスタッフと若いスタッフで作る素晴らしいチームワークの介護スタッフに守られて、利用者は家庭的な環境の中で穏やかな共同生活を営み、自分らしい生活を楽しんでいて、ホームの中はにぎやかな話し声や明るい笑顔に満ちている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「寄り添う心を忘れずに」「信頼を深めながら」「自信を持って」「満面の笑顔でおもてなし」の施設理念を作り、掲示も行い実践できるように心がけて努力している。	企業理念「福祉事業を通じて地域社会に貢献する」のもとで、事業所開設時に職員全員で作成した事業所独自の理念をリビング内に掲示するとともに名刺大のカードに印刷して常に携帯し、毎日の朝礼で唱和するなど全員で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し地域のお祭りなどにも参加している。また、施設の行事にも参加いただき交流を図っている。日常的な交流を行うことが課題と考えている。	町内会に加入し、町内や公園の清掃、地域の行事に積極的に参加し、地域との交流を図っている。また、地域の人気が気軽に訪問してもらえるよう地域交流室を開放しており、開設1周年行事には、地元の手芸サークルの作品の展示等で大いに盛り上がった。	地元の保育所、幼稚園、小中学校等との交流の早期実現を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症キャラバンメイトとして地域の方へ認知症サポーター研修を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター・自治会長・民生委員等に参加いただき、状況報告だけでなく地域の情報を得たり、助言等を頂き、ミーティング、センター会議の場で課題として話し合っている。	2か月に1回会議を開催し事業所の現況を報告するとともに、参加者の意見や助言を受けてサービスの質の向上に活かしている。会議のメンバーは町内会長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員、利用者、利用者家族、事業所職員等である。	年間の開催予定日を年度初めに設定する等の工夫をしてメンバーが出席しやすいような配慮を望みたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の場だけでなく、申請、問い合わせなどで窓口には訪問している。不明な点は相談して解決している。	市・区担当者とは書類提出や相談事などで窓口を訪問し意見や助言を得るなどして良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を実施し具体的な行為を理解し拘束をしないケアを心がけると共に、契約時に家族にも説明を行っている。また、ケアの場でも身体拘束に当たらないかスタッフ同士で確認している。	身体拘束をしないケアについては契約時に家族に説明し理解を得るとともに、毎月1回の研修と年1回の法人研修を行い職員全員の理解につなげている。また、玄関の施錠については、日中は開放しているが、夜間は安全面を考慮し、施錠することにしていて、家族の了解も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回、虐待に関する研修を実施し、全員が意識し防止に努めている。また、ケアの場でも言動・動作などにも注意するよう指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家族に対して支援する旨の説明は行っているものの職員の制度の理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明には十分時間をとり説明を行っている。その場で疑問点なども確認を行っている。また後日分からない点があれば説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・家族から意見、要望等がいただけるような関係作りに努めている。家族からの意見等は記録に残し、スタッフに共有している。	苦情の受付ならびに処理体制については重要事項説明書に明記してあり家族の了解を得ている。利用者・家族の意見や要望を聞く機会を多く持つように心がけており、毎年「お客さま満足度アンケート」を実施することになっている。	各ユニットに「ご意見箱」を設置されるよう望みたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングを行い意見交換を行っている。また随時、話を聞くよう心がけている。	管理者と職員の間には気軽に話し合える関係ができており、日常の業務や毎月のミーティングで率直な意見交換が行われ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自、年2回、自己評価を行い面談を実施している。また、各自、年2回目標を作成しその達成度を評価している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の内部研修を実施し、スキルアップを図ると共に外部研修へも参加の機会も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修会などで同業者との交流を図り、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前には自宅や入院先などに事前訪問を行い、話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前には施設の見学をしていただき納得いただく。また、現在の困っていることや意向を確認し、入居後も要望等を言っていただけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用にあたり本人・家族の要望等を取り入れ、また安心して生活していただけるよう計画書を作成しケアの内容を理解していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その方の能力に合わせて、出来ることは一緒に行ったり、得意なことは任せるなど、一方的な関係にならないよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事への参加を呼びかけたり、面会時にご様子を報告し、交流に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	家族や親戚の面会はあるが、馴染みの場所などへは行くことは少ないが、ご本人様が楽しんで頂けるようスタッフ間で相談している。	開設後1年、友人・知人の訪問はまだ多くはないが、家族や親戚との面会は良く行われている。近所の店での買い物、散歩などで馴染みの関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者の性格なども考慮し対応を行っている。孤立しないように共通の話題提供なども心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族からの相談があれば、相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報を元にコミュニケーションを図りながら本人の意向を汲み取るよう心がけている。	利用者との日常会話や家族との面談を通じて、要望や意向を把握し、ケアプランに反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族や関係機関から情報を得ようとしている。入居後も、新しい情報はスタッフで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェックの実施など心身状態の把握を行うと共に、関わりの中で把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画書作成の際にはケア内容について家族、スタッフの意見を取り入れている。またミーティング等で内容の見直しを行っている。	利用者本人・家族の思い、関係者からの情報をもとに、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。また、随時モニタリングを行い見直しの必要があれば計画変更を行い、利用者・家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌や個人経過記録、連絡ノートなどを活用し情報共有を行っている。個人記録には変化があれば詳細に記入するよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご希望の添うために、全員が状況を理解し対応するために話し合いの場を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の情報収集を行い、楽しみながら生活できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際に家族とかかりつけ医について相談をしている。看護師がDrと連携を図り状況把握を行っている。	利用者と家族の希望と安心を第一に考え、従来からのかかりつけ医の継続受診の希望があれば、そのように支援するとともに事業所はかかりつけ医と緊密な連携をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師・介護職員間の情報間は円滑に行えており、指示のもと対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報提供を行っている。退院時には相談員との連携を図り、施設での受け入れ態勢を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した際の対応について説明している。実際のケースはまだないが、利用者の状態を見ながら随時、検討していくこととしている。	重度化した場合や終末期の対応については入居の契約時に話し合い、方針を共有している。利用者の状況の変化に応じてその都度、検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修を行い対応できるようにしていると共に、随時看護師の指示を仰ぎながら対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2回/年の訓練を実施。そのうち1回は消防署立会いのもと実施している。地域との協力関係は検討している。	消防署の指導のもとで年2回定期的に災害時の避難訓練を実施するとともに地域との協力体制の充実を心がけている。	・緊急時の役割分担表、連絡網を早急に整備されるよう望みたい。 ・夜間想定訓練など困難な事態が想定されるものの訓練を重点的に行われることを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	話を聞く姿勢を大切にしている。そして一人ひとりの性格等に合わせ話し方など対応を心がけている。プライバシー保護、接遇・マナーの研修を定期的に行っている。	定期的にプライバシー保護、接遇・マナーの研修を行い、利用者の尊厳・プライバシー保護の重要性についてはよく理解し実践されている。また、個人情報に関する書類等は施錠できるキャビネットに厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを図り、話しやすい環境作りを心がけている。また、可能な限り自己決定が出来るよう選択肢を作ったりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の気持ち、体調に応じて可能な限り本人のペースを大切に心がけてるが、人員の関係などで施設に都合に合わせていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類など本人の希望を確認している。また女性の方など外出時にはお化粧を楽しい気持ちになっただけよう努めている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は厨房にて一括して行われているが、時に手作りをしたり外食を楽しんでいただいている。配・下膳など一緒に行っている。	食事は事業所3階の厨房で一括して作られているが、時には利用者と一緒に手作りや外食を楽しむこともある。メニューは肉系か魚系かを希望により選べるようになっていて体調によっては、おかゆ・とろみ食・きざみ食等も用意されている。また、食事の準備から片付けまで職員と一緒に歩いて、家庭的な食事の時間を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量の把握をし咀嚼・嚥下状態などを考え食事形態も状況に合わせて変更している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前には口腔体操を行い。毎食後、口腔ケアを行っている。また訪問歯科による確認も行ってもらっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の排泄間隔などの把握しできるだけトイレでの排泄が行えるようにしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインをよく把握しており、トイレ誘導を行うとともに、介助・見守りを行いトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日ごろから水分摂取や運動を行っている。排便の状況を把握し、主治医との連携により内服薬でのコントロールも行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間帯や曜日などを決めているが、体調や気分によって臨機応変に対応している。	原則として週2～3回の入浴を楽しめるようにしているが、体調や気分によっては臨機応変に対応していて、職員の都合やスケジュールに左右されないように心がけ、利用者はそれぞれのペースでゆったりと入浴を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中など本人の体調や希望により休息していただいている。就寝時間など本人の希望に沿うようしているが、場合によってはスタッフから促すこともある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師により管理を行い、処方の変更などがあれば情報をその都度、共有している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居時に昔の趣味などを情報を得るようにしており、レクリエーションに取り入れている。ユニット間での交流も行い気分転換等も図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>週1回程度は買い物や散歩などで外出の機会を作っている。また外出レクなども実施している。</p>	<p>利用者にホームに引きこもらない生活を楽しんでもらうため、職員は声かけや動機付けなど、いろいろ工夫しながら外出を支援している。本人の体調や希望に合わせて、散歩や買い物、ドライブなどの日常的な外出のほかに、花見や紅葉狩りなど季節ごとの外出レクを実施している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>トラブル回避のため、基本的には所持をされていないが、本人の安心感のため所持されている方に関しては家族に管理を依頼している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話等、ご本人が希望時には対応している。事前に家族と相談し電話をかけることの理解を得ている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>掃除・室温管理はもちろんのこと、季節感を感じる作品を作成し掲示したり、写真を掲示し、安心して楽しめる環境作りを心がけている。</p>	<p>安全を配慮したバリアフリー設計の共用空間は、空調・音・照明などに十分な配慮がされており、利用者の作品や行事の写真、職員と一緒に作った季節感のある作品が飾りつけられ、大型の壁掛けテレビの前には、ゆったりとしたソファが置かれていて、居心地良く過ごせる環境作りがされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>席の配置を変更したり、ソファでくつろいでいただけるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅から馴染みのものや写真などを持参していただき、安心できる環境作りに努めている。</p>	<p>利用者が居心地良く自分らしい生活ができるように使い慣れた家具や生活用品、写真・装飾品などを持ち込み、それぞれ思い思いの飾り付けを行い、自分の家として安心して過ごせるような工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居時に希望だけでなく身体状況なども加味して出来ることが続けられるよう家族と居室を決定している。トイレなども分かりやすく掲示している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所 サンキ・ウエルビー グループホーム吉島

作成日 平成 25年 11月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	緊急時の役割分担の把握、理解	緊急時、自分の役割を沿って行動できる	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の申し送り時で当日の役割を確認する ・定期的な訓練の実施 ・月初め各部署で物品の点検、配置場所の確認 	6ヶ月
2	6	入居者の家族からの意見や要望を聞く機会が少ない	家族からの意見を日々の生活に反映できる	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱の設置 ・通信などで入居者の様子を発信しコミュニケーションのきっかけを作る 	6ヶ月
3	2	地域との交流の機会が少ない	保育園や幼稚園などとの交流を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の開催のお知らせ ・保留中の保育園との交流の実現 	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。